



くすりと健康

一般社団法人
神戸市薬剤師会

突発性難聴

耳の構造は、「外耳」「中耳」「内耳」からなっています。外耳は音を集めて中耳に送る働きがあり、中耳は送られてきた音を振動に変えて内耳に送り、内耳は振動を電気信号に変えて脳に送る働きがあります。脳が受け取った信号を「音」と認識して、初めて音が聞こえたと感じます。このため、この間に何らかの障害が起こるとちゃんとした音として認識できなくなり、難聴などの症状となって現れます。

難聴には大きく分けて「伝音性難聴」と「感音性難聴」があります。伝音性難聴は音の通り道である外耳から音を内耳に送る器官である中耳までの音が伝わってくる場所が障害されて症状が起こり、中耳炎や耳垢が詰まることなどが原因となります。感音性難聴は音を信号に変えて脳に送る器官である内耳が障害されて症

状が起こります。高齢になると耳が聞こえにくくなるのはこのタイプです。

突発性難聴は、感音性難聴のひとつで、突然音が聞こえなくなったり、耳が詰まった感じになるなどの症状が起こります。耳鳴りやめまい、吐き気などを伴うこともあります。多くの場合は、片方の耳だけに起こり、再発を繰り返したりすることはあまりありません。また、遺伝的要素はないと考えられているため、遺伝しないようです。原因は、音を脳に伝えるための器官である内耳が障害を受けて起こると考えられています。詳しい原因は、内耳の血液循環が滞る、ウイルス感染、免疫システムの異常などが疑われていますが、今のところよくわかっていません。

治療は、ステロイド薬、ATP製剤、ビタミン製剤、血液循環改善薬などを用いておこなわれます。ステロイド薬は怖い薬というイメージを持つ方もいらっしゃるかもしれませんが、突発

性難聴の治療では、長期間服用を続けることはなく、副作用を心配することはあまりないので、医師の指示通り服用してください。治療は、症状が出始めてからすぐに始める方が完治しやすく、症状が出始めて1〜2週間以上たってから治療を始めること、治らなかつたり、耳鳴りなどの後遺症が残つたりすることが多くなります。また、若年者や難聴以外の症状がない方、生活習慣病などの持病を持っていない方は比較的完治しやすいようです。

突発性難聴はいつどこで誰に起こるかかわらないので予防は難しいのですが、規則正しい生活とストレスをためないことである程度予防できるといわれています。もし、突然耳が聞こえなくなったら、すぐに医療機関を受診し治療を始めることが一番の対策です。

（北区）薬局エビノファーマシー

松本 博志